

対象 : 進学コース・英語特化コース 1年生

人数 : 458名

形態 : 校内研修 / 体育館・教室 / 体験活動

導入事例 : 近畿大学附属高等学校 様

体験の共有を通して

クラスを超えた繋がりを生む

ご担当者様の思い

入学後、一学期という期間を経て、クラス内の交流は進み、繋がりは強くなってきているが、日常ではなかなかクラスの枠を超えた交流が持ちづらい。今回のサマーキャンプでクラスという枠を超えて、学年としての繋がりを強めていきたい。

目的

クラスを超えた交流と繋がりの強化



プログラム概要

普段あまり関わることがないメンバーと共に“非日常の体験を共有”することでコミュニケーションの活性化を図り、お互いを知り、関係を構築する機会を提供。

まず、参加者をクラスの枠を超え、ランダムにグループ分けした。グループ分けも情報カードを使った『仲間探し』というアクティビティとして行い、他クラスの生徒との交流や互いを知る機会とした。

コンテンツは、クリエイティブな活動や身体性を伴うアクティブな活動など、特徴の違う3つの活動（次ページで紹介）を行い、互いの得意や強みを様々な形で活かせるようにした。

01

説明会 (半日)

運営 : サテライト

- ・ オープニング
- ・ グループ分け、自己紹介
- ・ 本番の活動説明
- ・ 本番に向けた作戦会議
- ・ クロージング

02

本番 (1day)

運営 : 全体、グループ

- ・ オープニング
- ・ グループ分け
- ・ 活動説明
- ・ グループ活動
- ・ 結果発表、表彰
- ・ クロージング

手裏剣メーカー タワービルディング

紙を使って、手裏剣をより多く、タワーをより高く作るグループ活動。

日常と近い環境で、交流を促すとともに自分自身、グループを俯瞰し、在りたい自分（自分たち）を探し、試す機会とした。



パイプライン

半円状のパイプを使い、ボールをより速く運ぶグループ活動。

より速く運ぶための試行錯誤の中で、交流を促し、意見を伝える、他者の意見に耳を傾け、どうするか決め、実行する。課題解決の仕方を探し、試す機会とした。



ウォール

壁（3.5m）を全員が乗り越えるグループ活動。

メンバーの体力、気力、身体能力などのリソースをグループの強みとして活かせるか？課題解決の過程で本音のコミュニケーションを試す機会とした。



成果と今後の取り組み

- 研修を通して、多くの交流の機会を提供できた。プログラムアンケートでは、97%の生徒が「クラスを超えた交流の機会になった」と回答し、感想からも「クラスを超えて友達をつくることができた」「またこのように他クラスと交流する活動がしたい」など、ポジティブなコメントが多く見られた。
- 今回のように、グループでミッションの達成やゴールを目指すという体験を共有することは、生徒同士の交流や関係性の構築には非常に有効である。
- 学年が変わる前（3学期後半など）に実施することで、一年間のふりかえり、新たな関係性構築という意味でも有効であると考えている。

お客様の声

- クラスを超えた交流と繋がり強化を達成できたという点で非常に満足している。
- 生徒にとってとても有意義な時間になった。今回できた横のつながりは将来的に役に立ってくると思う。
- これまでクラスを超えた交流がなかったため良い機会であった。身体運動を伴うものであったため、言葉でのコミュニケーションが苦手な生徒も取り組みやすかった。

研修担当者所感

グループでミッションの達成やゴールを目指すという体験を共有することは、生徒同士の交流や関係性の構築には非常に有効である。身体的な活動により“今ココ”に集中しやすい状況が生まれた。目の前の人と関わり、困難なこと・自分自身や他者に向き合う機会は、自分という軸を確立していくために非常に重要であると考えている。

有限会社 エssenシャル エデュケーション センター
代表取締役 田中 翔紘 (TANAKA SHOKO)



有限会社

Essential Education Center

訪問授業、課外授業、教員研修などのご相談・お問い合わせは
コチラ <https://e-ec.co.jp/contact/>

